

**令和4年度生涯スポーツ功労者及び生涯スポーツ優良団体表彰  
鳥取県受賞者・団体の主な功績等（県推薦分）**

**1 生涯スポーツ功労者**

氏名	山根 俊一（やまね しゅんいち）
主要経歴	鳥取県アーチェリー協会理事長
功績	アーチェリー指導者として卓越した手腕を発揮し、選手強化やジュニアの育成に力を尽くし数多くのインターハイ、国体出場選手を育て上げるとともに、現在県内で指導者として活躍している人材の育成に成果を残した。また、愛好者を含めた選手全員に対する安全指導に熱心に取り組み、競技の健全な発達に貢献している。

氏名	城市 徳之（じょういち のりゆき）
主要経歴	学校法人翔英学園米子北高等学校サッカー部監督
功績	サッカーを通し強い精神力を養い、技術だけでなく将来につながる人間性の育成に注力。結果、米子北高をサッカー強豪校に押し上げ、平成21年度インターハイではチームを準優勝に導いた。卒業生から多くのJリーガーも生まれ、地域の子供達に夢を与えた。幼稚園のサッカー教室や地域ボランティア、公民館での社会講座など積極的に行い、サッカーを志す子供たちの裾野拡大や健全育成、地域振興に貢献し続けている。

氏名	竹田 新太郎（たけだ しんたろう）
主要経歴	鳥取県ボート協会理事長
功績	ボート競技の普及に努め、国体や世界大会で優秀な成績を挙げる選手を多数育成するなど競技力向上に貢献。また、県内で開催する各種大会の運営のほか、体験会や少年少女ボート教室等を積極的に開催し競技者の増加や裾野の拡大に尽力。近年では障がい者のボート競技であるパラローイングの選手強化や講習会、体験会を行うなどパラスポーツ普及にも貢献している。

**2 生涯スポーツ優良団体**

団体名	社スポーツ少年団卓球部（倉吉市）
代表	監督 松本 秀樹（まつもと ひでき）
功績	倉吉市社地区では昔から卓球が盛んで、平成8年から24年連続で「全国ホープス卓球大会」に出場。スポーツ少年団員は日頃から地域の卓球愛好家と練習を共にし、地域での交流が図られている。退団後も中学、高校の部活動で活躍する傍ら、後輩の指導や地域交流に積極的に参加する姿がチームの伝統となっている。また、地域の祭りや奉仕作業にも積極的に参加し、地域コミュニティーの形成にも寄与している。

団体名	サンリンク・スポーツ（倉吉市）
代表	代表理事 杉谷 哲治（すぎたに てつじ）
功績	幼児から高齢者まで多世代にわたり多種目で多様な教室やイベントを実施し、地域コミュニティの活性化と住民の健康の増進に努めるとともに、地域の結びつきを強める事業を積極的に実施し、地域でのスポーツの普及と活性化に寄与してきた。また、障がい者スポーツ、ユニバーサルスポーツの実践・普及活動を通じて障がい者と地域住民との交流を図り「共生社会」の実現に大いに貢献している。

団体名	鳥取県空手道連盟
代表	会長 岡村 行雄（おかむら ゆきお）
功績	空手道の普及活動を目的とし県内の各流派をまとめる団体として、長年にわたり競技の振興のために活動。ジュニアから成年の指導に尽力し、昭和60年わかとり国体では競技別総合優勝を果たし、その後も20回の入賞を果たしているほか、全国大会において国体優勝者や世界チャンピオンを複数輩出。4年に1回国際大会を開催し、併せて世界チャンピオン経験者の講習会を行い国内外から多くの競技者が来県するなど、競技の普及や地域活性化に貢献している。